

花

センターだより

緑

2009・10
10号

(財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

兵庫県の風土を活かした庭づくり

第2回 景観 アメニティー確保 前庭front garden

兵庫県立淡路景観園芸学校

主任景観園芸専門員 能勢 健吉

前庭front gardenはイギリスから始まった庭の様式で、最近はわが国でも広がりを見せている。定義をすれば「家屋の前の通りに面した庭」となるが、公共空間である道路に面した場所は、たとえ個人所有の敷地であっても公共性を持たせることが望ましいという考え方が基底にある。イギリスの前庭は塀が多く日本の状態に近い。19世紀のアメリカで、さらに町全体の景観がピクチャレスク（絵画的、牧歌的etc.）になるように道路には街路樹を植え、前庭は極力広い芝生地とし、視覚的に隣地と連続させて、広い空間に家屋が点在するように町づくりを行う手法が確立している。



玄関までのアプローチは草花が両端を彩るバース市(イギリス)

近年作られるニュータウンなどでも、前庭を意識して造ることが多い。町全体の景観形成や住民の共有・連帯意識を高めるために取り入れている。塀があっても低くしてみたり、塀や生垣を後退させてその前に植栽スペースを設けたりして、外の道から庭を楽しめるようになっている。さらに生垣を揃えた街並みなども生まれている。前庭は家の内側と外の道の側から眺める構造となるが、奥行きが取れない場合は外からの景観が構成の中心となる。

具体的な例としてだが、外の少し離れた場所から家を眺め、家とバランスのとれた樹木やつる性植物を配置する。足元には芝生やリュウノヒゲが植えられ、さらに樹木と芝の間に低木や草花が彩りを添える。



社宅では芝生が統一感を見せるポートサンライト村(イギリス)

塀や生垣の外側には季節の花が植えられ道行く人々の楽しみとなる。前庭での植物の手入れは地域住民との交流を深めるだろう。季節の花、管理方法など話題には事欠かない。人が集い、手入れされ、人目にさらされる場所は犯罪にも遭い難いことが知られている。

現存する庭を急に改変することもないだろうが、機会があれば庭の造りを公共性のあるものにした方が、地域との繋がりがより密接なものになり、暮らしやすい街になるだろう。

家庭菜園を楽しむ 前編

兵庫県立農林水産技術総合センター
技術参与 大西 忠男

野菜づくりは、育てる楽しさ、食べる楽しさ、花と同じように見る楽しさが味わえます。

広いスペースの家庭農園はもとより、庭の狭いスペースやプランター、鉢などのコンテナで栽培することができます。このような家庭で楽しめる野菜づくりを2回に分けて紹介します。

1 野菜づくりに取り組むにあたって

(1) 場所、土の選び方

野菜づくりに適した「土」とは、① 水はけ、水もちがよいこと、② 通気性がよいこと、③ 病原菌や害虫がいないこと、④ 雑草の種子の混入が（少）ないこと、⑤ 肥料分を適当に含んでいること、⑥ 石など異物がないことなどの条件を満たすことが大切です。家庭菜園を借りる場合は、このような土の条件に加えて、日当たりがよく、風通しがよい場所を選ぶようにします。野菜づくりに適さない土は、堆肥などの有機物、石灰などの土壌改良資材を土とよく混和し土の改良を行います。コンテナ栽培では、野菜専用に調整された培養土が市販されているので、利用すると便利です。

(2) 年間を通じた作付け計画を立てる

野菜をはじめすべての植物は、栽培に適した時期があります。野菜づくりを始めるにあたって、時期別に栽培する種類と品種を決めることが重要です。露地野菜の種まき、植え付け、収穫時期を表1に示しました。連作障害を回避するため、トマト、ナスなどのナス科野菜、エンドウなどは毎年同じ場所に植えないように注意します。

表1 露地野菜の種まき、植え付け、収穫時期

野菜の種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
トマト・ミニトマト・ピーマン・ナス・キュウリ モロヘイヤ・青じそ・バジル		▼	→	□□□□□□								
すいか・かぼちゃ		▼	→	□□								
いんげんまめ・葉ねぎ	●	●	→	□	□							
キャベツ・ブロッコリー				●●	▼▼	→	→	→	□□□□□□			
レタス・ハクサイ					●	▼	→	→	□□□□			
シュンギク・こまつな・ほうれんそう 葉ねぎ・チンゲンサイ等					●	→	→	→	□□□□□□			
だいこん・かぶ・みつば					●●	→	→	→	□□□□□□			
にんじん				●●	→	→	→	→	□□□□□□			
いちご	→	□□□					▼	→	→	→	→	→
えんどう・そらまめ	→	□□□					●	→	→	→	→	→
たまねぎ	→	□□						▼	→	→	→	→
かんしょ	▼▼	→	→	→	→	→	→	→	□□□□			
ばれいしょ	→	→	□□		▼▼	→	→	→	□□			▼▼
さといも	▼	→	→	→	→	→	→	→	□□□□□□			

注:太字はプランターでも栽培可能な野菜 凡例: ●:種まき ▼:植え付け □:収穫

(3) 栽培環境に合った野菜を選ぶ

広いスペースの家庭菜園では、消費する野菜の種類、必要量を考えて栽培する品目、面積を決めます。また、タマネギ、イモ類は貯蔵場所も必要になります。

狭いスペースの場合は、ミニトマト、つみ取り型の細葉のシュンギク、リーフレタスなど長い間収穫できる品目を選びます。



野菜の光適応性は表2に示しました。光の条件に合わせた野菜の種類を選ぶことが大切です。住宅の敷地の菜園で日当たりの十分でないところではレタス、ミツバ、ねぎなどが適しています。

表2 野菜の光適応性

光適応	野菜の種類
強光が必要	トマト、なす、ピーマン、さつまいも、すいか エンツアイ、ササゲ、オクラ
比較的強光が必要	きゅうり、かぼちゃ、メロン、ショウガ、さといも やまのいも、かぶ、だいこん、にんじん、ごぼう
比較的弱光に耐えるもの	いちご、菜類、ねぎ、そらまめ、えんどう はくさい、キャベツ、サンショウ、ユリ
弱光を好むもの	セリ、ミツバ、フキ、レタス、ミョウガ、キノコ類



レタスの開花結実

2 レタスを楽しむ

(1) レタスのタイプ

レタスはキク科野菜で多くのタイプがあります。

①ヘディング型（玉レタス）

- ・クリスピー(crisp)ヘッド型… 日本で最も多く栽培されている結球レタス。
(写真A参照) クリスピーとは、しゃりしゃりとした歯切れのことです。
- ・バターヘッド型 …… 葉がねっとりとした感じのレタス。日本での栽培は極少です。

②リーフ型 …… サニーレタスに代表される不結球のレタス。

(写真B、C参照) 葉型や葉色に特徴があます。

③コス型 …… ロメインレタスとも呼ばれ、ラグビーボール状半結球のレタス。 (写真D参照)

④ステム型(写真E参照) …… 茎が40cm程度に伸び、茎を食べる。

⑤カッティング型(写真F参照) …… 適当な大きさになった葉を掻き取るレタス。



Aクリスピーヘッド型



Bリーフ型
(ロコロッサ)



Cリーフ型
(フリンジグリーン)



Dコス型



Eステム型
(ヤマクラゲ)



Fカッティング型
(チマサンチュ)

(2) レタスの栽培

レタスは、致命的な病害虫の発生がなく、栽培は容易です。発芽適温は15～25℃で、生育適温は18～23℃です。低温限界は-2℃、高温限界は30℃で、比較的冷涼な気候を好みます。花芽分化、抽だいは、高温、長日によって促進されるので、秋まき栽培での種まきは8月中旬以降とします。育苗日数は20日程度。

レタス類特にリーフレタスは家庭菜園に最適で、やや密植気味に植え付け、小さい内はベビーリーフとして、間引きをかねて収穫し、大きくなるときれいな葉を掻き取ります。このようにすれば長期間収穫が可能で、見た目もきれいな菜園となります。葉型、葉色の異なる種子をミックスしたリーフレタス種子も販売されています。

春先、日が長くなると花芽が伸びてきますが、この時期まで収穫が楽しめます。

兵庫県下のガーデンクラブ

くんだに 訓谷オープンガーデンの会

代表 太田 吉春

○発足の経緯

兵庫県の北端、自然美を十分に堪能できる山陰海岸国立公園の一角但馬海岸にある私たちの里。山と川と海に囲まれたこの地に一步足を踏み入れたら、旅のとりこになる。どの家々も木や花で周りを飾り、そこからは甘い香りが……。そして里の人々の優しい笑顔。歩くほどに心休まり、それでいて心躍る刺激が迫る。そんな里づくりを夢見た12人の仲間が花づくりに心を寄せ合い、平成15年4月より会がスタートしました。

○活動内容

折角なら種を蒔いて苗をつくり、植栽してみんなで花壇を管理したい。そのために花づくりのノウハウをしっかりと学びたい。そして自信を持って花づくりの醍醐味を里のみんなに伝えたい。そうした思いの延長から花壇と庭を見てもらいます。

海岸の多目的広場にある三つの花壇50㎡余りのお世話を開始。「ひょうご花と緑のコンクール」コミュニティ緑化部門に連続3回佳作で賞をいただきました。

しかしながら降り注ぐ太陽、過酷な潮風、瓦礫の土壌に負け4年で挫折。



オープンガーデンの見学風景

「せめて我が庭だけでも見てもらおう」と「訓谷オープンガーデンの会」として再出発して4年目になります。

毎月第1月曜日の集まりでの情報交換や他のオープンガーデンの現地視察により、庭づくりの力量をつけています。そこに力強い「助っ人」として、2010年度から地元の民宿女将衆有志にケーキなどでお持てなしの手伝いをさせていただくことになりました。また来訪者の「来年も開催してね」の声に自信と元気をもらいました。来年の開催に向けて仲間みんなが意気込んでいます。

谷川駅前フラワークラブ

代表 久下 一夫

○発足の経緯

わが町は、“花と緑の山南町”と謳われながらも、町の玄関口である谷川駅周辺は、1978年当時は歩いていると顔に草がかかるほどの状況でした。当時子ども会役員だった私は、子どもたちと一緒に草刈りをし、花畑を作り、プランターを置くなどして駅前の美化に取りかかり、山南町は文字通りの町に生まれ変わる事ができました。

○活動内容

現在会員数は、大人6名、子ども40名です。



駅前の植栽活動 一子どもたちと共に

99年より地元の久下小学校が地域での体験学習の一環として活動に参加。駅前の県道約300mに並んだ約80個のプランターに、5月にはペゴニアなど約400本、12月には葉ボタンやパンジー約400本を植栽しています。



休耕田に咲くアメリカフヨウ

また県の持続型花緑活動として町内の休耕田約10㍍にアメリカフヨウ約1000株を植え、世話をしています。直径20～30cmの花は、暑い盛りの時期に通りがかりの人々の目を楽しませています。

その他駅裏の川の堤防に桜並木を作る事業に参加したり、地元の子ども会や老人会で花苗を植える指導もしています。

こうした活動が評価され、95年に県の「こうのとりの賞」、04年には県園芸・公園協会の「花と緑の郷土づくり功労者賞」をいただきました。今後も学校や地域に役に立てるような活動をしていきたいと考えています。

相生市花と緑の協会

代表 團 増男

○発足の経緯

昭和50年に兵庫県が全県全土「花のあるまちづくり」を推進するため、県下各市町へ花と緑の協会設立を呼びかけたことをきっかけに、同年10月5日に設立、発足しました。

○活動内容

花と緑のある美しい郷土づくりを推進し、豊かな生活環境を創造し情緒豊かな市民性を培うことを目的として約800人の会員で様々な事業を行っています。

まず市木であるツバキの普及啓発に努めています。



つばきまつり

今年は3月20

日に、景勝地万葉の岬にあるつばき園（35品種、250本のツバキが植樹されています。）において「つばきまつり」を開催し、多くの来園者にその魅力を紹介しました。



2009まちなみガーデンショーAIOI

また今年4月25日から29日までの5日間、55か所の個人庭主と花壇管理者が参加して「2009まちなみガーデンAIOI」を開催しました。参加場所を分かり易くするためマップ、のぼりを作成。多くの人々が鑑賞に訪れました。

市民を対象に年3回ガーデニング等の講演会や講習会も開催しています。

市内54か所に設置しているフラワーポットや花壇に春、秋の年2回花苗を植栽管理し、年間を通じて花のあるまちづくりを実践しています。

日本ハンギングバスケット協会兵庫県支部

支部長 稲澤 範治

○発足の経緯

ハンギングバスケットは、英国で始まった歴史ある装飾園芸の技法です。

我が国の園芸は、長い間「育てる」ことが重視されてきましたが、1990年に大阪で開催された「花の万博」以降、育てることに加え飾って楽しむことの意義が認識されるようになり、いわばおしゃれ園芸時代が始まりました。ハンギングバスケットは、吊したり掛けたりして楽しむので、公共空間や個人の庭が狭い我が国にとって最も適した園芸として注目されるようになり、加速度的に広まりました。

そうした中、より一層の普及を目的として、また優れた指導者や技術者を養成する組織として、英国王立園芸協会日本支部（略称RHSJ）の支援のもと1996年3月に日本ハンギングバスケット協会（略称JHBS）が発足しました。2007年には兵庫県支部もスタートしました。



ガーデンショーの会場装飾（支部協力）

○活動内容

園芸先進国である英国のRHSの制度に倣って、ハンギングバスケットマスター（略称マスター）の資格認定



ひょうごまちなみガーデンショー体験教室

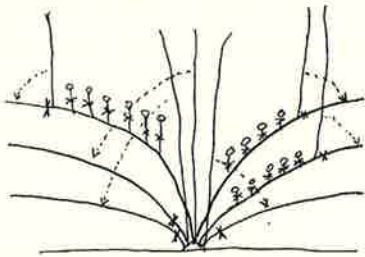
試験を実施しています。試験は学科と実技（作品制作）によって審査され、合格者にはRHSJからマスターの称号が与えられ、登録されます。

マスターや公認講師は研修会やマスター会を通して知識・技術の向上に努め、講習会を随時開催してその成果を会員に広めたり、会員相互の交流を図っています。現在県内のマスターは40名です。兵庫県支部は、ひょうごまちなみガーデンショーに作品を出展したり、体験教室の講師を務めるなど地域の催しに参加・協賛したり、ガーデニングコンテストの後援やその審査、その他各地で教室を開催するなど活躍しています。

ツルバラの誘引

Q ツルバラをフェンスに絡ませたいのですが、どのようにすれば良いのか誘引方法を教えてください。

A ツルバラは、夏の間に株元や太いツルの途中から強いシュートが次々に発生します。このツルは、支柱をなるべく垂直に立てて支柱に沿わせて縛ります。誘引と剪定は12月に行います。これより早いと枝が折れやすく、遅いと堅くなり作業が困難になります。立てていたツルを出来るだけ横に寝かせてフェンスに荷作りひもなどで固定します。ツルが立っていると、翌春ツルの上部からしか芽が出ないので、花の数が少なくなります。寝かせてツルを這わせることで、多くの花を咲かせることができます。ツルの本数が多ければ、古いツルは全て切り取ります。本数が少なく足りない時は、古いツルから春にでた枝の2芽を残して、それより上の枝を切り取ります。



熱帯植物の室内への取り込み

Q 観葉植物やラン類を室内に取り込みたいのですが、どのようにしたらよいでしょうか。

A 観葉植物は、大半が熱帯性の植物なので、越冬温度が問題となります。低温で越冬できるゴムノキ、カポック、シダ類、パキラ、アスパラガス、スパティフィラム、トックリラン、アグラオネマ、クンシラン、シンビジウム、デンドロビウムなどは5℃以上の室内に取り込みます。少し温度が必要なアナナス類、ポトス、ドラセナ、ディフェンバキア、コルディリネ、カラテア、クロトン、マランタ、モンステラ、フィロデンドロン、パンダナス、ペペロミア、パフィオペディラム、オンシジウムなどは10℃位が目安で、少し暖かい室内に置くようにします。ディフェンバキア、シンゴニウム、カトレア、コショウランなど高い温度が必要な植物は、電熱ヒーターなどを備えたワーディアンケース内に置か、発砲スチロールの箱に夜だけ封入して保温します。光を多く必要な種類は窓際に、光量の少ない種類は、少し奥まった場所に置きます。灌水は用土が乾燥すれば日中の昼前頃、少し温かい水を控え目に施します。

●●● 季節の園芸相談 ●●●

相談員 山田 益男

シャコバサボテンの管理

Q シャコバサボテンのツボミがつかません。どのようにしたらよろしいか。

A シャコバサボテンは短日植物のため、部屋の窓辺などで栽培していると、夜間室内灯の明かりで長日と感じて、いつまで経っても花芽を作られません。夜自然に暗くなるようにすれば、10月下旬頃から花芽が出来はじめ、約1ヵ月で完成します。積極的に短日処理するには、夕方5時くらいから翌朝8時頃まで、ダンボール箱などで光が入らないように日覆いすると1ヵ月で花芽が完成します。その後は長日になっても、蕾が生長してきます。また、9月中旬から10月中旬まで灌水を控え、秋に新葉(茎が葉状になったもの:茎節と呼ぶ)が出ると花芽の付きが悪くなるので、水やりを控え、出た新芽は摘み取ります。

また、小さな蕾は環境が変わると、ポロポロと落ちるので、蕾が色着くまで環境の変化を少なく保つことが大切です。



(財)兵庫県園芸・公園協会
花と緑のまちづくりセンター

** 園芸相談コーナー **

草花・花木など
花と緑のことならなんでもご相談をお受けします。写真や実物をご持参いただきますと、お話ししやすくなります。

Tel 078 (918) 2405
10:00~16:00 (年中無休)
Fax 078 (919) 5186
Eメールアドレス:

info_midori@hyogopark.com



センター長のひと言

～全国オープンガーデンフォーラム in Awajiへのご案内～

(財)兵庫県園芸・公園協会理事兼花と緑のまちづくりセンター長 石原 憲一郎

オープンガーデンは、約80年前の英国で、ナショナル・ガーデンズ・スキーム (NGS) という慈善団体の活動から生まれました。自宅の庭を開放し、その入場料の一部を社会福祉事業などに寄付する社会貢献活動の一つとしてスタートしました。

県下では3年前に有志団体が兵庫オープンガーデンネットワーク (事務局 花と緑のまちづくりセンター) を結成。12の団体 (486邸) が所属して活発な活動を行っています。

わが国の活動は、英国のような社会貢献的使命感より、もっと参加者と訪問者が自由に会話し楽しみながら、美しいまちづくりへ貢献したいという思いが強いのではないのでしょうか？さらに自宅の庭にこだわらず、教育施設、福祉施設、お寺や神社の境内、企業敷地、公園・広場などの空間にも活動の場を広げ、景観まちづくりから観光振興へ結び付けるなど、いわば日本型オープンガーデンを展開しています。

今春、県下各地の活動を拝見しました。相生市在住の中西昭雄さんは、なんと脳疾患によるご不自由なお身体でありながら、そのリハビリとして始めた庭造りが今やプロ以上に成長。さらに相生のオープンガーデン活動団体の一員として交流を深め、スキルアップを旨ざされているのがたいへん印象的でした。社会貢献やまちづくりだけでなく療法的効用に驚いた幸いです。

さて、予想を上回る700万人の来場者を数えた「淡路花博ジャパンフローラ2000」から早くも10年。10周年を機にこれまでの取り組みを検証し、環境重視社会の構築、分権社会にふさわしい地域固有の取り組みの推進等新たな時代潮流を背景に、「人と自然のコラボレーション」をテーマに来年3月20日(土)から72日間、「淡路花博2010 花みどりフェア」が淡路島で開催されます。

その目玉が、4月17日、18日の2日間、淡路夢舞台国際会議場で開催される「全国オープンガーデンフォーラム in Awaji」です。全国から達人をお呼びして、日本型オープンガーデンの現状と未来について語り合い、さらに、県下のオープンガーデンツアーも考えています。ご期待下さい。



花ごよみ



	花名	10月	11月	12月
フラワーセンター	コスモス		●	
	ケイトウ		●	
	ペゴニア		●	
	インパチエンス		●	
	サルビア		●	
	キンギョソウ		●	
	パンジー・ビオラ		●	
	バラ	●	●	
赤穂海浜公園	サザンカ			●
	ツワブキ		●	●
	ノジギク		●	●
北播磨余暇村公園	バラ		●	●
	キンモクセイ	●	●	
	モミジ		●	●

	花名	10月	11月	12月
西猪名公園	コスモス	●		
	ノジギク		●	
一庫公園	ムラサキシキブ類(実)	●		
	コブシ類(実)	●	●	
	ガマズミ類(実)	●	●	
	ドウダンツツジ(紅葉)		●	●
西武庫公園	バラ		●	●
	コスモス	●		
有馬富士公園	ツワブキ	●	●	
	ナツハゼ(紅葉・実)	●	●	
明石公園	イロハモミジ	●	●	●
	サザンカ			●
	カンツバキ			●